

青少年育成推進協議会だより

歌の旅 パート11

会長 鈴木 暉

「生きているということは、誰かに借りをつくっていること。生きてゆくということは、その借りを返しているということ。」

多くの名言を残された永六輔さんの言葉ですね。わたしはこの言葉が大好きで座右の銘のようにしていますが、私自身が借りた背に負いきれないほどの沢山の借りは、とても返し切れるものではないと思っています。

多才の六輔さんは作詞家でもあり、「上を向いて歩こう」、「こんにちは赤ちゃん」などの名曲がありますが、「女ひとり」もまた名曲の一つと思います。1965年にディューク・エイセスが歌ってヒットしました。今回は永六輔さんを取り上げてみました。恋に疲れた女性がひとり、傷心の身を和服につつんで京都の名勝を逍遥する。ご当地ソングのはしりです。

この歌をご披露したのは、歌詞がとても良いから！50年以上も経って色褪せることなく、とりわけサビの部分は、かえて色艶が増したようにさえ感じます。

1番の「結城に塩瀬の素描（すがき）の帯が 池の水に揺れていた 京都大原三千院」、2番の「大島紬に綴れの帯が 影を落とした石畳 京都榎尾高山寺」、そして3番の「塩沢緋に名古屋帯 耳をすませば滝の音 京都嵐山大覚寺」と、きてはたまりません。

因みに、「結城に塩瀬の素描の帯」の「結城」は結城紬、「塩瀬」は一般に帯を作る生地を言うそうで、「素描」とは簡単な絵に糊を交ぜた絵具で直接帯に描いた絵のことで、この帯は夏を除いた季節に使える優れもの。2番の「大島」は鹿児島県の大島紬、「綴れの帯」は西陣のつづれ織りのこと。3番の「塩沢緋」は新潟県魚沼市塩沢で生産されている日本を代表する織物ですね。

言ってみれば、サビに出てくる絹織物も帯もわが国の誇る名産品と言えます。こういう一流品を身に着けているミステリアスな女性ってモデルが居たのか、それは何者を歌ったのかと、又六輔さんの作詞家としての推し量れない力量に感じ入ってしまいます。

この頃、仕事で大原を訪れた六輔さんはタクシーを利用されたとか。三千院の周辺は大渋滞だったそうです。すると、タクシードライバーのボヤキが聞こえたそうです。

「近頃、女ひとりとか言うつまらない歌が流行るものだから、道が混んで私ら商売にならないんですよ！」

さて、本題に入りましょう。正月早々に中国の武漢で発生した新型コロナ・ウイルスが、今では世界中に広まり、わが国でも毎日罹患者が出て拡大しており、その防止策として3月初めから小中高の休校、図書館などの公的施設の休館などの措置のため、3月の定例運営委員会を中止しました。し残した行事の北陽中学校のカレー作りも中止しました。

ここまで、ご協力・ご支援いただきました各種団体、委員の皆さまには心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

地球規模で拡大を続けるこの疾病が、早期に鎮静化しますようお願いを込めて！



2019年
10月19日(土)
推進協まつり
子ども大会開催!!

毎年、子どもたちのパフォーマンスも楽しみです!



ありがとう

小出小学校で今年もたくさんの子供たちが
参加してくれました



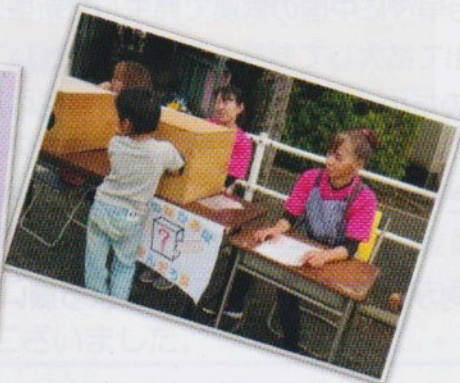
みんなでO×ゲーム!
どちらが正解かなあ?



校長先生とジャンケン大会!
勝ち抜いたのはだれ?



子どもたちのパフォーマンスに
始まり、みんなでゲームをしたり、
スタンプラリーでひとりひとり
ゲームにチャレンジ!
おなかですいたら、焼き鳥や
うどん、わた菓子等を食べたりと
楽しい時間を過ごせたかな?



堤地区にある子どもの園をご存知ですか？

推進協議会のメンバーに園の先生も参加していただいています。今回地域の皆様にも少しでも知っていただけたらと原稿をお願いしました。・・・



私たち子どもの園のように、家庭に代わる生活の場としての児童養護施設は全国で6百を超え、約3万人の子どもたちが入所しています。

また、児童養護施設の他にも、一定期間に目標や課題を克服するための経過施設として、児童自立支援施設や児童心理治療施設等があり、これらをまとめて児童福祉施設と呼びます。

児童福祉施設は、戦災孤児の保護・救済を主とした孤児院として、児童福祉法が制定される以前に各地で篤志家が私的に始めた事業が中心でした。孤児院は読んで字のごとく、子を養うべき親の不在による代替養育の場でしたが、戦後の高度経済成長を経て、社会情勢、家族形態、働き方（共働き等）の変化から、児童養護施設は主に傷病・養育の放棄や虐待など、子を養うべき親の不適切な養育からの保護が増加し現在に至っています。

子どもの園は、1945年に横浜桜木町で平賀孟氏が戦災にあった子どもたちとテント生活をしたのが始まりで、1947年にアメリカの孤児院「少年の町」(BOYS TOWN)の創設者フラナガン神父が来園したのを機会に「BOYS HOME」と名付けられました。1971年に社会福祉法人の認可を受けたのを機に「子どもの園」と名称を改め、1979年に廃材で建てられた古い建物から茅ヶ崎に移転し41年が経過しました。多くの方々の御理解と協力を得て、この度園舎を一新することもできました。元々横浜にあった施設なので、現在入所している子どもたちも横浜で保護された子どもたちです。

現在の定員は40名で、本園の4つのホームと、少し離れたところにあるグループホームとに男女混合の縦割りでホームを編成し、約20名の職員と共に生活を営んでいます。

職員は基本的には住み込みで、起床の「おはよう」から就寝の「おやすみ」まで途切れることなく子どもたちと関わり、時にはぶつかり、共に涙し、時には大きな喜びを共有したりと、家族という枠を超えた、濃密で豊かな暮らしを営んでいます。もちろん、集団生活であり年齢層も幅広い為、喧嘩もあり、我慢することや制約もあります。それぞれが思い通りの生活ができないことで、不満や愚痴が噴出することもあります。そんな時にこそ、これまで受け止めてもらえなかったぶんも子どもたちに寄り添い、思いを受け止めることができるよう職員が一丸となって日々奮闘しています。

しかし、私たち職員だけの力では補いきれないものがあります。子どもたちが伸び伸びと健やかに成長するために欠かすことができないのが、地域の方々の施設への理解と日頃の見守りです。この小出という地に迎え入れていただき、地域の方々の本当に豊かで温かい心に触れ、子どもの園は守られてきました。私も推進協に参加させていただくようになって、子どもの園を地域の方々が気に掛けてくださり、心を寄せてくださっているのを改めて深く感じることができました。本当にありがとうございます。

私たち職員にできることは本当に小さなことでしかありませんが、皆様の力もお借りして、子どもたちがこの小出という故郷を誇りに感じながら、希望を持って巣立っていくことができるよう日々の営みを紡いでいこうと思います。



委員研修報告

2月12日委員研修へ行ってきました。委員研修のテーマも子ども大会同様「学ぶ・遊ぶ・食べる」です。運営委員17名を乗せた市のマイクロバスは一路川崎方面へ。まずは関東三大厄除け大師として有名な川崎大師。広い境内は空いていて、みんな願い事を胸にお参りしたり、参道でショッピングしたりと自由散策。川崎大師には「しょうづかの婆さん」と呼ばれる奪衣婆の像があります。ここは容姿を美してくれるということで、一同真剣にお参り。はたしてお願いの効果は…？。

続いて向かった先は、川崎大師からほど近い「味の素川崎工場見学」。ここは約10万坪東京ドーム8個分の広さ、あまりに広いので製造工場へはアジパンダちゃんのバスに乗って移動です。

Cook Doができるまでの工程をガラス越しに見学。広い清潔な工場内をほぼオートメーション、ロボットアームが動きすごい速さでお馴染みのレトルトパウチが作られ箱詰めされていきます。



人の姿はほとんどなく、こんなにたくさん作って売れちゃうのー?! の声も。その後は、Cook Do を使った調理実習。3、4人のグループに分かれインストラクターさんの指示のもと回鍋肉を作ります。ちょっとしたコツも聞きできた物をみんなで試食。食の勉強の後は、横浜の港を見下ろすお店にて中華のランチに舌鼓。お天気にも恵まれ楽しい一日を過ごすことができました。

運営委員会って どんなことしてるの？

毎月開かれている運営委員会を紹介します。第2水曜日午後7時開始

会長挨拶 毎回 音楽のトリビア紹介。へ～そうなの？って。つかみは OK!

活動報告と、活動予定の話し合い。ここで色々細かい計画や 役割を決めていきます。

学校関係の報告 小出小学校と北陽中学校の校長先生から、学校の様子を伺います。

小学校学年担当・中学校生徒指導の先生から、子ども達の具体的な話を聞くことができます。

続けて、小中PTA代表から 保護者の活動についても聞かせてもらいます。主任児童委員/青少年指導委員/少年補導員からは、市全体の動き及び、それぞれの委員さん活動についての話。

ちょっと子育てから離れた大人も、今どきの子どもの事・親の様子を知ることができます。

小出サッカークラブ/小出ボールメイツからは、地域で活動している子どもたちの 頼もしく嬉しい活躍報告。やっぱり子どもたちの活躍は、大人にとっても元気の元ですね。わかば会/コミセン/里山協議会・地域で子どもたちを見守りながら 大人も成長していく団体からの活動紹介。

子どもの園の先生からは、いろいろな環境のなかで頑張ってる子どもたちの様子を伺い、大人として考える事も。2時間近くの会議もあっという間です。

推進協議会主体の活動・他の団体への協力など、委員の皆さんの参加で成り立っています。委員は、地域団体や、自治会からの代表で構成されていますが、委員以外の皆さんにも 関心を持って頂けたら嬉しいです。



ある日の運営委員会
校長先生のミニ授業。

運営委員さんの感想

推進協は2回目で、委員の方々が普段気が付かないところでも、地域の為に頑張り小出を支えている事がわかり大変勉強になりました。又、いくつかのイベントに参加しましたが、やりがいがありとても楽しい経験でした。委員としては離れてしまいますが、今後何か地域の為にお役にたてる事があれば微力ながら協力させて頂きたいと思います。ありがとうございました。 F

